

～手をつなぎ 作ろう未来の ふるさと作手～

作手

地域協議会 だより

<第28号>



発行

作手地域協議会

(事務局) 作手自治振興事務所

〒441-1492 新城市作手高里字繩手上60番地 作手総合支所内

電話：0536-37-2280 FAX：0536-37-2216

Eメール：tsukude-jichi@city.shinshiro.lg.jp

第9回作手地域協議会 市長との懇談会開催

10月25日(金)、つくで交流館
多目的会議室において第9回作
手地域協議会を開催し、市長と
の懇談会を行いました。

【作手地域協議会】

合併して新城市となり14年が経過しました。作手地域においては、合併したことによる特別な予算で、つくで交流館や作手小学校などの施設など、多くの資金をあてて整備していただき、ありがとうございます。しかし、この合併したことによる財源も、永遠に続くわけでもなく、将来において財源が削減されていくことは当然のことかと思っております。そのような厳しい財源の中で、私たち作手地域協議会でも、作手の将来について考えていく必要があると思っております。そこで、市長には市のトップという立場から、新城市の中の作手地域としてのあり方や役割、将来どのような地域になって欲しい、また、それを果たすための方策など、お考えをお聞かせください。

【市長】

とても大きな質問をいただきました。私の方から新城市全体、あるいは東三河地域、愛知県というような単位の中で、作手地域をどのように見ているかというお話しをさせていただき、これから皆さんが、地域の将来を考えるとときに一つの参考にしていただければと思います。

最近のニュースなどで、ポツポツと気になることがありますが。例えば、宅配サービスなどでドライバーの方がいなくてどうにもならない、あるいはバスの運転手がいなくて路線バスの運行ができないなど、色んなことを聴きます。つまり労働力がなくなり、既存のシステムが立ち行かなくなるということが、少しずつ色んなところで、ポツポツと出てきているわけです。日本全体では、人口減少の実感というのはまだ共有されていないと思います。どうということかという、明治の初めから百数十年で1億3千万人くらい

で人口が増えました。これから20年、30年の間に、またガクンと落ちていきます。ジェットコースターに乗った時の状態を思い浮かべてください。カタカタ登ってきて、これから真つ逆さまに急降下していく時代を迎えると思うのです。これは日本全体の避けられないことだと思います。ところが現在は、ジェットコースターがカタカタと上に登ってきて、先頭が下り坂になっても、後ろはまだ登っている状態。先頭の方は、これから落ちるぞという実感があるわけですが、後ろの方はまだ登っているわけです。例えば愛知県でいうと、名古屋、尾張方面では、まだ人口が増加している市がたくさんあります。

一方で新城市は人口減少に入っています。色んなシグナルが出ています。今まで当たり前になっていたこと、維持してきたサービスが、お金がないとか、技術がないとかではなく、それを動かす人がいないから、できかねるといってアップアップ

な状態が始っています。けれども、まだ人口が増えている地域があるものだから、日本全体では共有できていないのです。これがあと20年すると、東京圏まで含めて人口減少に入っていきます。その時に、こんなこととどったんだと気付く人たちが最後尾にいるわけです。そうした時に、人口が減っていくことをどうしていかうかとか、あるいは過疎化をどうしていかうとかいいう議論は、おそらく日本全体がこうなった時には、もうそんなこと言っている状態ではなくなっています。その中で、どういう展望を、どういう未来を見ていくかが、我々の課題と思います。

では、その中でどうやって新しい街を作っていくか、地域を作っていくかという課題に、本気になって我々が直面していかなければいけません。

どこから活力を得るのか。2つあると思います。一つは、作手地域の皆さんが産業の基盤をしつかり持つ。稼げるタネを地域の中にしつかり持つということと、それと外からの力をどうやって引き入れて、活力を増していくのかということ。その両面だと思っています。

作手地域の基盤になる産業は、やはり一貫して変わらず、農業と、今は厳しいですけど林業、つまり農林業。そして観光で交流の人口を増やしていくことです。

私どもが注目していることは、トヨタの研究所です。あそこに5千人からの新しい雇用が生まれてきます。新しい人たちが、1日に数千台の車が行き来をします。それは作手からわずか20分のところにあります。このことを視野に入れて、新し



い「人と人とのつながり」をたくさん作っていくということに、私たちが全力を挙げていかなければいけないと思っています。

作手には素晴らしい土地があります。農地があり、林地があり、あるいは住宅地であれば、夏はクーラーがいらぬような素晴らしい住環境があります。それを一番の元手として生かしていく地元の人たち、そしてやっぱり新しい力を入れてきて、それをつなぎ合わせていかなければいけません。新城市の第1次総合計画は「市民がつながる 山の湊 創造都市」が

キャッチフレーズでした。今度の第2次総合計画では、「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」をキャッチフレーズにしています。一貫して「つながる」を市政の一番のポイントに置いていきます。地域と地域、あるいはお年寄りと若者たち、男と女、都市と農村、これらをつなげる力をどうやってつけていけるかということに活路を見出していかなければいけないと思います。

日本人の人口全体は減っていきますけれども、外国の人たちが入ってくる、観光客も入ってくる、今回のラグビーワールドカップでも日本の選手だけではない力が混ざり合って、爆発的な力となりました。それを本当に快く、気持ちよく受け入れて後押しをしようとする日本人たちの熱意が作り上げたと思います。これからの日本の姿とはあのようなものだと思います。ですので、今ある作手の資源を我々が大切にしていって、農業であったり林業であったり、基盤をこ

れからもしっかりと守って、維持していきけるところは維持していくとともに、新しいつながりを求めて外にも打って出るし、あるいは新しい人たちを受け入れていくための仕掛けを作っていくかなければいけないと思います。

具体的に言えば、農林業等の基盤をしっかりと整備していくとともに、あと数年後のトヨタのテストコースがオープンすることを見据えて、住宅環境と教育環境が一番の要だと思えます。作手の皆さんは早くからこのことに着目さ



れて、英語をこども園の時からやっつけていこうということ、英語講師の派遣事業を地域自治区予算としてやっただけではありません。このことは、新城の他地域にも飛び火して、英語講師の派遣を地域自治区予算でやっつけていこうという流れが出てきています。一方、もう少し住宅整備というのはしっかりと連携して整備をしていかなければいけないと思います。

新城市としての作手地域は、独自の方面、方角を見られる地域だと思えます。新城・鳳来は、豊川の流れに沿って豊橋、浜松、東と南の方面を見ます。作手地域は、矢作川の流れを含めて、豊田、岡崎、名古屋が見えます。そういう中で、自分たちのつながる力を色んな場でつけていたきたい。つまり、一人のつながる力が1から2に増えれば、そこで新しい価値観が生まれ、新しい交流が生まれま

れてきます。そういう門戸を広げながら進んでいくのが我々のこれからの道かと思えます。

【作手地域協議会】

作手歴史民俗資料館について、今後どのようなのか教えてください。

【市長】

本当にとても大きな決断をしなければいけないということだけは、皆さんにお伝えしたいと思えます。今のまま維持するのは、大変厳しいことは事実であります。来館者はここ1、2年は、「続日本100名城」に古宮城址が選ばれたことやお城ブームもあり増えています。もちろんこれから古宮城址を始めとした城址や史跡も歴史文化として、整備していきながら交流人口を増やしていきたい。ただ、そのための本当の拠点として、今の作手歴史民俗資料館が機能しているかという点と、必ずしもそうではないと思



作手歴史民俗資料館

います。

それはお城ブームが来る前は本当に厳しい状態でした。けれどもあの中にある民俗資料、そしてあるいは古宮城址を訪れる人たちの動きというのは大切にしていかなければいけませんから、その中であの施設をどうやって維持、運営していくかを考えていかなければいけません。手作り村との連携、それから古宮城址の生かし方、そういうものの中で作手歴史民俗資料館の位置付けをはっきりさせていかなければいけ

ないと思います。まだ具体的に決まっていますので、皆さんと知恵を出していかなければいけません。

もう充分に分かっていただけだと思うのですが、「残して欲しい」という気持ちがあるのは当然のことです。それはしっかりと受け止めているつもりです。けれども、「残して欲しい」、「残せない」、「じゃあ、どうしてくれるんだ」という議論の枠の中からは、あまり生産的な意見は出てこないと思います。ただ、いつまでに廃止をして、閉鎖するという考えはありません。それぞれの思いをつなげながら、どうしたらこの地域が一番生きていくのか、そのためにこの作手歴史民俗資料館をもう一回どうやって位置付けし直していくかを、両方で知恵を絞っていかなければいけないし、協力し合わなければいけないと思っています。

Information お知らせ

☆間もなく募集締め切り！ 令和2年度 地域活動交付金事業！

地域活動交付金は、地域の課題解決や地域の活性化のために、市民が主体的に取り組む活動に対して支援する交付金です。

申請に関する相談がありましたら、お気軽に作手自治振興事務所までお問合せください。
(電話：37-2280)

募集期間	令和2年1月31日(金)まで
審査日	令和2年2月29日(土) *時間は申請件数により決定されます。
上限額	1団体につき50万円
補助率	対象経費の100%以内



つくだの見どころ紹介 その1



①鳴沢の滝 (新城市指定名勝)

作手守義地内の当貝津川にあり、川を断層が横切っているため、破碎岩が水に侵食されてできた落差15mの滝です。滝の手前に滝つぼがあり、浸食で滝が後退して今の姿になったと考えられます。段戸山を水源とするこの滝は、年間通じて豊富な水量に恵まれ、両岸からせまる岩盤が作り出す急流が、轟音とともに一気に流れ落ちる迫力と、滝つぼから噴き上がる水けむりを浴びる心地よさ、岸壁に茂る木々たちが、四季の景観に彩りも与え、訪れる人を魅了させてくれます。